

2015年（平成27年） 11月 706号

キリストと共に死ぬ、キリストと共に生きる

マリノ E. デハクト Jr.

聖パウロによれば「わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです。」聖パウロにとってキリストに生きるということは身体的に死ぬことであり、命の霊が与えられることです。キリストと共に死ねば、キリストと共に生きるのです。わたしたちは死について黙想する必要性があり、望むべきものなのです。それによって私たちは世俗的な欲望から解放されるのです。私たちは世俗的なものから分離することができるよう努めなければなりません。しかし原罪によって私たちはいつも肉欲に対して戦わなければなりません。私たちの力だけでは何もできないのです。イエス様による恵みだけがこの罪による傷から癒されるのです。

神様が私たちのために医者のようになって医療としてイエス様をこの世にお遣わしになりました。この医療を通じて肉欲を捨てるべきです。身体的に生きていても、肉欲を容認してはいけません。身体を大切にしなければなりません。霊的な面のほうがもっと大事なのでイエス様からの恵みを望まなければなりません。イエス様の死によって世は救われました。主は世を救うために死に至る必要性がないのですが、イエス様にとって死は忌み嫌うものではなく、避けなければならないものでもありません。これが最高の世の救い方なのです。彼の死は人類の命の源になっています。キリスト者である私たちはイエス様の死によって印されています。私たちはミサを献げる時に、主の死を告げ知らせているからです。イエス様の死は勝利であり、聖なるしるしであり、毎年全世界の教会はイエス様の死の記念をお祝いしています。

イエス様の死と復活によって世が救われました。つまり死は人類の救いの源になったので、悲しいことではありません。死ぬことは避けなければならないものでもありません。神の子イエス様でも十字架による死を避けようとも思わなかったからです。魂はこの世と身体的な汚れから離れて、天国の集会に向かって聖人たちと一緒に神様に賛美の歌を献げることができるように望まなければなりません。またイエス様に出会うことを魂が願わなければなりません。ダビデ王は「ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命ある限り、主の家に宿り、主を仰ぎ望んで喜びを得、その宮で朝を迎えることを。」と祈りました。彼はこの世で富と喜びを手に入れましたが、主の栄光を見ることも希望しました。私たちも永遠の命を得るためには神様と一緒に過ごすことだけしかないのです。